

CNJ Speakers

Know(≠No)More Cancer 私たちは、もっと伝えたい



No.
30

日米の比較から考えるがん情報とピアサポート
CNJ News / CNJ Report
2023 年度活動報告・サポーターリスト
海外がん医療 TOPICS



日米の比較から考える がん情報とピアサポート

米国NPO法人FLAT・ふらっと
代表理事

ブロディー 愛子

国立がん研究センター
がん対策情報センター本部 副本部長

若尾 文彦

がんの病院選び・治療法選びは、住んでいる国や地域に関わらず、多くの患者が直面する悩みの一つです。情報が氾濫する中、どうやって病院や治療の情報を得ればよいのでしょうか。がんの情報収集の仕方やピアサポーターの役割とその課題について、在米日本人の医療と健康をサポートする米国NPO法人FLAT・ふらっと代表のブロディー愛子氏と、国立がん研究センターがん対策情報センター本部の若尾文彦氏が、日米を比較しながら語り合いました。

「がん情報サービス」で

病院選びの情報も発信

若尾 国立がん研究センターが運営する「がん情報サービス」(※1)では、「院内がん登録」やがん診療連携拠点病院の現況報告書などを基に、病院選びの参考になる情報を提供しています。ただ、患者さんへのアンケートの結果では、病院選びにインターネットを使った人は約5割で、残りの5割は、いわば「医者任せ」で、かかりつけ医などに紹介された病院で治療を受けています。

日本の医療はフリーアクセスで、自由に病院が選べます。それはそれで悩ましい部分もありますが、米国では、加入している医療保険によって、受診できる病院が限ら

れるという話を聞きます。実際はどうなのでしょう。

愛子 おおむねその通りです。米国では治療を受けたい病院に予約を入れるときに、名前よりも先に、どの医療保険に入っているかを聞かれます。そこが、国民皆保険の日本とは大きく異なるところです。がんの治療を受ける場合は、自分から病院に電話をして自分の保険で治療を受けられるか確認するか、保険会社から提供されたリストの中から選ぶような形です。

「がんの疑い」、あるいは「がん」と診断されたときには、かかりつけ医であるプライマリケア医(PCP: Primary Care Provider)が出した紹介状を持って、専門医のいる病院を受診する仕組みになっています。米国在住でも日本人は、かかりつけ医に言われたところへ行く傾向がありますが、

本来、どこの病院で治療を受けるかは患者に選択権があります。私は、十年以上にわたって、がんと診断された在米日本人のサポートをしてきました。1000人近い人たちの経過をみてきた経験から、やはり、病院や治療を患者が自分で選ぶことは非常に大事だと実感しています。

若尾 これは日米共通だと思いますが、がん治療を受ける病院を探すポイントの一つは、病院側の医療提供体制です。国立がん研究センターが運営する「がん情報サービス」(※1)では、病名や住んでいる地域などから病院を探す情報を提供しています。例えば、「お住いの地域から病院を探す」(※2)というページで、地域と「対応可能な診療と特徴」を選べば、陽子線・重粒子線治療などの粒子線治療や核医学治療など特殊な治療に対応できる病院が検索できます。

「専門医療職から探す」からは、部位別にそのがんの専門医や専門看護師などがある病院も調べられますし、がん種別の診療実績についても、がん情報サービスが統計サイトの「院内がん登録全国集計結果閲覧システム」で検索が可能です。診療数が多いほどいいとは限りませんが、自分のがん種の治療に精通している医師や看護師などが揃っているかは重要です。そして、例えば手術を受ける病院が地域の医療機関と連携が取れているか、再発などのときに治療を受けた病院へ戻れるかも確認する必要があります。また、心臓病や腎臓

病など併存疾患のある人は、自分の病気に対応できるかということも、病院を選ぶ際のポイントになります。その病院が無理なく通える範囲なのかも大切です。

米国ではがん経験のあるナビゲーターも患者に伴走

愛子 私が考えていた以上に、日本でも病院を選ぶための情報提供が進んでいるように思います。ですが、私が乳がんになったときもそうでしたが、がんと診断されたばかりのときは、ほとんど何も分からない状況です。がん患者初心者の段階のときは、情報がどこにあるのかや、どのような情報が必要なのかを教えてください、一緒にステップを踏んで伴走してくれる患者ナビゲーターが必要です。

若尾 日本の場合、病院選びや治療法選びなどで困ったときの窓口となるのが、全国各地の「がん診療連携拠点病院」や「地域がん診療病院」に設置されている「がん相談支援センター」(※3)です。全国461施設(2024年4月1日現在)ががん診療連携拠点病院などに指定されており、がん相談支援センターでは、医療ソーシャルワーカーや看護師などが無料で電話や対面での相談に応じています。そ



ブロディー 愛子
(米国NPO法人FLAT・ふらっと代表理事、
国際コーチ連盟認定ライフコーチ)

10年前にアメリカの患者支援団体「SHARE」に日本語プログラムを立ち上げ、乳がんと婦人科がん患者のサポート活動をすると共に、ニューヨークの医学生へのコミュニケーション教育や、コミュニティーへの臨床試験の理解を図る活動に参加。現在は在米日本人の健康と医療を支える「FLAT・ふらっと」を立ち上げ、がん患者に限らず幅広いサポート活動をしている。



若尾 文彦
(国立がん研究センター がん対策情報センター本部 副本部長)

1986年横浜市立大学医学部卒
横浜市立大学医学部付属病院臨床研修医、
国立がんセンター病院放射線診断部レジデント、同医員、医長、
国立がん研究センターがん対策情報センター長、同がん対策研究所事業統括、
がん情報サービス(ganjoho.jp)の運用、がん政策研究等に従事。
2023年4月より現職。

の病院にかかっていない患者・家族でも利用できますし、匿名でも大丈夫です。

がん情報サービスの「がん種別の診療数で病院を探してもらおう」(※4)の「対応施設」のリストに載っている病院のがん相談支援センターでは、院内がん登録のデータベースである施設別がん登録件数検索システムを使って、病院を探すサポートもしています。

愛子 米国では、病院とは別に非営利団体などで研修を受けた患者ナビゲーターがいて、がんの治療選択などの際にも患者に伴走します。日本では、がん相談支援センターがナビゲーターのような役割を果たしているのですが、病院のスタッフは非常に忙しいので、がん体験者であるピアサポーターを患者ナビゲーターとして活用してもよいのではないのでしょうか。患者がどういうことでパニックになるかは、経験者でなければ分からない面があり、ピアサポーターの役割は重要です。

若尾 日本でもピアサポーターの重要性は認識されていますが、患者サロンなどで自分の経験を話すなど、患者さんに寄り添うような活動をしています。米国では、診療の中にピアサポーターが入っている形ですね。

愛子 正に、私はピアの患者ナビゲーターとして在米日本人の診療に付き添うこともあります。コロナ禍以降は遠方の患者の診察にオンラインで、医療通訳者と一緒に立ち会ってサポートする機会も増えました。日本人は米国にいても医師に遠慮しがちですが、患

者ナビゲーターが介入することで、がん初心者が気付かない確認すべき点などを医師に質問するように促せます。それによって患者は必要な情報を得るだけでなく安心感も得ることが出来ます。日本でもピアサポーターの役割を広げ、患者ナビゲーターとして医療に参加しても良いのではないのでしょうか。

自分の体は

自分で守る意識が

患者力を高める

若尾 自分の治療が、そのまま他人に適応されることは、まれであることもあり、日本では、ピアサポート活動において医療への介入はほしくないというルールとなっています。今後は、変えていくことも含めて、検討する必要があるそうですね。

愛子 もちろん、患者ナビゲーターとなるピアサポーターには教育が不可欠です。医学の資料などを読んで全て分かっているような気持ちになって、患者に助言するのはとても危険です。私自身、患者ナビゲーターとして活動するときには心がけているルールの一つ目は、特定の医師や病院を勧めない、二つ目は、患者さん本人の選択を決して否定しないことです。がん治療は選択の連続ですが、正解がないということも必ず伝えていきます。私たち患者ナビゲーターが、たかさんの選択肢



を挙げることで、短期間に患者さん自身を持つ情報の範囲が広がります。

若尾 情報がどこにあるか、どの情報が信頼できるかナビゲートすることはとても大事ですよ。日本の患者団体やピアサポーターの皆さんには、ぜひ、がん情報サービスやがん相談支援センターのことを、がんの患者さんやご家族に伝えていただきたいです。

愛子 米国の患者団体は、患者イコール弱者というイメージを持たせません。日本でも、患者団体が団結して、がん体験者に患者ナビゲーターを任せられるような環境をつくる必要があるのではないのでしょうか。

若尾 ナビゲーターが利用する環境として問題なのが、日本ではインターネット上にエビデンス(科学的根拠)に基づかない怪しい情報があふれていることです。自由診療でエビデンスに基づかない免疫療法などをやって

いる医師が、あたかも良い治療であるかのよう

愛子 やはり、患者ナビゲーターがいらないから、怪しい情報に惑わされるのではないのでしょうか。そもそも、自分の体は自分で守るもので、情報を見極める力も大事です。米

国では18歳以上になったら、自分の医療情報(カルテ)は自分で管理します。そういうところから、自分の体は自己責任で守らなければならぬという意識が芽生えるのだと思います。米国ではセカンドオピニオンも受けるのが当然で、受けなければ自分の健康

若尾 日本ではセカンドオピニオンが以前よりは広がりつつありますが、カルテ開示は手続きが煩雑ですし、自分のカルテ情報にアクセスできるシステムも、まだ限定的です。



病院の質評価や 医療を変える

患者団体の力に期待

若尾 ところで、医療情報に関して、米国では、各病院の医療の質を評価したQI (Quality Indicator) なども公開されていますよね。日本では、厚生労働省の研究班が、標準治療を実施しているかどうかなどが、がん治療のQI評価を実施したりはしていますが、各病院の状況は公表されていません。がん診療連携拠点病院も、病院の体制などを現況報告書という形で公開してはいないものの病院の自己評価ですし、提供されている医療の質が分かりにくい状況です。都道府県が分かりやすく加工して公表しているところも出てきていますが、病院の質評価とその情報公開は日本の課題です。

愛子 情報開示の仕方も患者団体が団結して改善を求めれば、変わると思います。米国では、米国がん協会 (ACS: American Cancer Society)、全米がん経験者連合 (NCCS: National Coalition for Cancer Survivorship) などが患者団体を束ね、強い政治力を持っています。そういう組織が、例えば治療薬がなければ研究が進むように資金を集めるなど、ないものは自分たちで作るという姿勢で臨んでいます。ただ待っているだけでは、欲しいものは手に入

りません。

若尾 日本でも、がん対策や臨床試験への患者・市民参画は進んできています。今後はますます、全国がん患者団体連合会のような団体が患者団体を束ねて、さらにがん医療を変える活動をするのが重要になると考えます。

愛子 日米を行き来していて思うのは、日本人が持っている力を最大限に発揮すれば、日本の医療や患者力は米国を超えられるのではないかとことです。米国を追随するのではなく、良い部分のみ吸収して、日本の患者支援システムを整えるときが来ているのではないのでしょうか。

文／福島安紀
撮影／清原明音

◇参考サイト

- ※ 1. 国立がん研究センター・がん情報サービス
<https://ganjoho.jp/>
- ※ 2. がん情報サービス 相談先・病院を探す
「お住いの地域から病院を探す」
<https://hospdb.ganjoho.jp/kyoten/kyotensearch>
- ※ 3. 「がん相談支援センターとは」
<https://ganjoho.jp/public/institution/consultation/cisc/cisc.html>
- ※ 4. 「がん種別の診療数で病院を探してみよう」
https://ganjoho.jp/public/institution/consultation/cisc/hospital_search.html




AMGEN

To serve patients

患者さんのために、今できるすべてを

アムジェンは1980年、バイオテクノロジーの黎明期に米国カリフォルニア州ロサンゼルス近郊にて産声を上げました。バイオテクノロジーを患者さんのために役立てることを決意し、以来、探求を重ねてきました。40年を経た現在、アムジェンは世界最大規模の独立バイオテクノロジー企業へと成長しました。日本では、循環器疾患、がん、骨疾患、炎症・免疫性疾患、神経疾患の領域に重点を置き、アンメット・メディカルニーズに応える製品開発を進めています。

アムジェン株式会社の詳細につきましてはこちらをご覧ください



2023年3月 CA230015SH1

第10回OCT (Over Cancer Together) がんサバイバー・スピーキング・セミナー開催報告

4月20日(土)、「OCTがんサバイバー・スピーキング・セミナー」が開催されました。2012年からスタートし今年で記念すべき10回目を迎えたこのセミナーは、がん経験者やがんに関わる人が、自らの体験のなかで、目の前に立ちほだかる「課題」を解決するためのプレゼンテーション・スキルを学ぶという取り組みです。

【背景】

がん患者が置かれている環境をよりよく変えていくために、社会へ向けて当事者が発信することは、とても重要なことです。しかし自分のことを知らない人々へ、「がんの課題を解決したい」という思いを正しく伝え、さらには共感まで得ることは、決してたやすいことではありません。切実な思いが空回りしてしまったり、誤解を生むなど、リスクを伴う危険もはらんでいます。

自分のメッセージが人々の心をつかみ、自分ごととして共感・協力を得るためのプレゼンテーションとはどういうものなのか。そこに必要な「語り方、伝え方」をみんなが学ぶセミナーを提供しています。今回もさまざまな環境で暮らす、がんだけが共通点という初対面の32名が会場の東京ウィメンズプラザへ集結しました。

【セミナーの内容】

・事前準備/この日のために参加者が準備することは二つ。

①専門家による「インプットセッション」動画の視聴。がん患者の置かれている現状と歴史、当事者が声を上げる意味と注意点を、プレゼンテーションのコツの事前学習をしておく。

②事前学習をふまえ、自身の「課題」「変えたい環境」「そのために起こしたい行動」などを3分間のプレゼンテーション用にまとめた原稿を作成する。

・当日のセミナーの様子

参加者は作成してきた原稿を手に、8つのグループにわかれて着席。このメンバーで一日を共に過ごします。最初にOCT卒業生2名がお手本となるプレゼンテーションを披露。そしていよいよ午前、午後の2回に分けてワークショップ開始です。OCT卒業生らが各班のファシリテーターを務め、一人一人のプレゼンテーションをグループ全員で聞き、意見交換を重ね、より伝わりやすい原稿へ書き直すという作業を繰り返します。困ったときには会場を巡るプレゼンテーションスキルコーチの久田邦博さんに助言を求め、グループが一丸となって全力集中する濃密な時間を過ごしました。

最後の全員発表では32名が緊張しながら3分間のプレゼンテーションを行い一日の成果を披露。その内容は実に多岐にわたったものでした。がん種や性別、年齢や置かれている環境が異なる話を聞き、気づかなかった新たな課題に気づくことで、視野がより広がったのではないだろうか。

無事に受講証明書を受け取り、晴れてOCT10期生となった32名の表情は、朝の不安感とは打って変わり自信に満ち、この一日でスタッフも含めこの場にいた全員の世界観が少し変わったと感じました。

これらセミナーの詳細は、後日OCTのウェブサイトに掲載される開催報告書で紹介いたします。お楽しみに。

寄稿/山崎多賀子

詳しくはこちら



<https://www.octjapan.jp/>





チャリティバイク・ライドイベント
「2024 C2C4C Japan」今年も開催！

C2C4C (Continent 2 Continent 4 Cancer) は、プリストルマイヤーズスクイップが主催するチャリティバイク（自転車）・ライドイベントです。がんで亡くなった方やがんと闘う患者さんへの想いを多くの人につなごうと、世界中の同社の社員が自転車でリレー形式にて長距離を走破します。2014年に米国で始まり、2016年には欧州、2021年には日本、そして2022年からラテンアメリカでもスタートしました。この活動を通じて、これまでが

研究のために集まった寄付金は、1,600万ドル以上にのぼります。

日本では4回目となる

今年も、10月1日～10月15日にかけて約60名の社員が、病気を闘う

2024
CONTINENT 2
CONTINENT
4 CANCER
JAPAN

患者さんへの想いを胸に日本各地を走り抜けます。そしてこのライダーに想いを託して「私たちができること」として、広くがん支援への募金活動が行われます。この募金とプリストルマイヤーズスクイップからの寄付金を合わせた総額が、認定NPO法人キャンサーネットジャパンに支援金として届けられます。昨年は総額で約2,300万円が同法人に支援金として届けられました。より多くの人にごん支援の大切さを理解していただき、さらなる貢献ができるよう、プリストルマイヤーズスクイップでは社員一丸となって取り組みます。

C2C4Cやチャリティイベントを通じて、私たちはこれからもがんと闘う患者さんやがん研究のための支援を続けます。C2C4Cにかける想い・取り組みにご賛同いただける方の温かいご支援をお待ちしています。

寄稿/プリストル・マイヤーズスクイップ株式会社

詳細はこちら



<https://congrant.com/project/cnjdonation/11624>

Melody of Life:
音楽と笑顔の魔法で、今を生きる

トーク&ヴァイオリンコンサート開催

7月13日(土)にベルサール虎ノ門を会場に開催を予定しています。今年で活動を開始して33年目を迎えたキャンサーネットジャパン。コロナ禍で治療を強いられ不安な時間を過ごしたがん患者や家族、医療従事者などへ音楽やトークの力でエールを送る企画です。

司会はキャンサーネットジャパン理事の中井美穂が務め、笑いのセンスあふれる小藪千豊さん(タレント)のトークから、困難の中にも前向きに「今」を生きるヒントを、繊細さと情熱を兼ね備えた石田泰尚さん(ヴァイオリン)や中島剛さん(ピアノ)の音色から、「癒し」と今を生きる「活力」を感じる演奏を届けます。当日の様子は、次号で紹介いたします。

がんと音楽にまつわるエピソード公開

日常生活の中に音や音楽があるように、がんやがん治療の生活の中にも音楽が存在しています。

がんや治療の過程で特別な意味を持つ楽曲やエピソードを広く募集し、曲とその背後にあるストーリーをウェブサイトでご紹介していきます。

文/池田

エピソード
公開・募集
はこちらから



<https://www.cancernet.jp/seikatsu/story/musicepisode/>

thank you
SOLD OUT

ヴァイオリン: 石田 泰尚
ピアノ: 中島 剛
トーク: 小藪 千豊
司会: 中井 美穂

Melody of Life 音楽と笑顔の魔法で、今を生きる
トーク&ヴァイオリンコンサート

2024年 7月13日(土) 開場/13:30 14:00~16:00
場所/ベルサール虎ノ門 東京都港区虎ノ門2-2-1住友不動産虎ノ門タワー2F
全席自由席 入場料: 3,000円 未就学児童入場不可

多発性骨髄腫におけるSDM (Shared Decision Making) 促進を目的とした治療選択支援冊子の制作

多発性骨髄腫は血液がんの一種で、高齢者の罹患率が高い疾患です。2006年12月のプロテアソーム阻害剤上市以降、新規薬剤が多く開発・上市され、治療環境が大きく変わり、組み合わせを含め選択肢の大幅な広がりを見せています。

一方で、患者となる高齢者の多くは既に様々な基礎疾患を併発していたり、骨病変等に伴いADL（日常生活動作）が低下していたりするケースがあり、家族の支援体制が治療方針を決定する大きな要素となるケースも考えられ、さまざまな課題を耳にします。

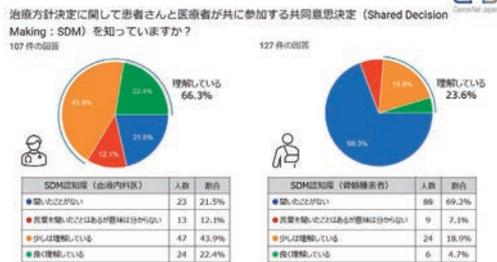
今回、CJNでは、プロジェクトの目的を多発性骨髄腫におけるSDM (Shared Decision Making：共同意思決定) の教育と促進とし、治療選択を支援する冊子の制作を進めています。実施にあたっては、塚田信弘先生（日本赤十字社医療センター 血液内科 副部長）、平原憲道先生（マレーシア国立マラヤ大学医学部 デジタルヘルス・イノベーション 教室内准教授） 監修のもと進めており、ファイザー株式会社の公募型医学教育プロジェクト助成「多発性骨髄腫領域における治療環境およびサバイバーシップの向上」の助成を受けています。

SDMに関するアンケート調査実施報告

多発性骨髄腫の患者さんや血液内科の先生方を対象に、SDMに関する実態を確認するためのアンケート調査を本年3月に実施

しました。結果はウェブサイトに「意識調査」内で公開しています。

アンケート結果からは、SDMという言葉の認知度は、「少しは理解している」という回答を含めても理解しているという回答した血液内科医は66.3%（回答数107件）多発性骨髄腫患者は23.6%（回答数127件）という結果であり、SDMの概念の周知を含めて今後の制作を進めていくこととなりました。



第49回日本骨髄腫学会学術集会に登壇

学会内の患者・市民参加プログラム「Shared decision making」の普及を目指して一骨髄腫とともに健やかに生きるために「のセッション」へ、スタッフの池田が登壇しました。

SDMのアンケート調査の速報と共に患者支援団体や患者会としての課題感等についても発表させていただきました。

文／池田

薬剤師対象 「慢性骨髄性白血病 (CML) 治療環境向上プロジェクト」報告

2021～2023年度に「慢性骨髄性白血病 (CML) 治療環境プロジェクト」をファイザー株式会社の助成により実施いたしました。CMLの治療は主に飲み薬です。しかし、薬剤が高額なために服用を控えたり、副作用を理由に自己判断で減薬や中止したりするケースがあります。CML患者に身近な薬剤師に、正しく服用を継続することの大切さを学んでいただき、CML患者の服薬アドヒアランスを向上させるサポーターとなっていたいただくことを目的としたプログラムです。

専門医や薬剤師によるCML解説動画を提供し、動画視聴前後にアンケートを実施。動画を視聴した薬剤師には、CJNが制作したCML患者向けの冊子と受講証明書を交付し、CMLについて動画で学んだ薬剤師が在局する薬局をウェブに公開しました (希望者のみ)。

視聴後のアンケートでは、副作用への対処や服薬アドヒアランスの重要性の説明など「自信をもってできる」「資料を確認しながらできる」の回答が、視聴前より、6割近くも増加しました。この結果の詳細は、第57回日本薬剤師学術大会 (9月、埼玉) にて発表する予定です。

文／多田

プログラムの詳細はこちらから



https://www.cancernet.jp/cml-videos_for_Ph/

血液がんフォーラム2024 開催決定

11月30日(土)・12月1日(日) 開催!

このフォーラムは、血液がんの患者・家族一般の人に広くお届けする日本最大規模の血液がんに特化したフォーラムです。今年は6回目の開催を迎えます。白血病やリンパ腫、多発性骨髄腫など血液がん治療の最新情報や血液がんを取り巻く課題や問題をテーマとして取り上げ、オンラインで開催します。昨年は申込者の約7割が初めての参加者で、立場で最も多かったのは4割弱を占めた医療従事者であったことは、特徴的でした。初めて参加される方にもわかりやすく、治療後の経過が長い患者さんにとっても有益な情報を届けることを念頭に置き、プログラムを構成し、アンケートによるご意見も多く取り入れて開催します。

オンライン開催を続ける大きな理由は、オンラインームで治療中の方や外出が困難な方、海外からの参加もあるためです。全国で血液がんの患者・家族を支援する患者会の活動や交流会の情報を集約してお届けするオンラインブース出展も募集予定です。順次公開する情報をウェブサイトでご確認ください。

文／池田

血液がんフォーラム 2024

全国の血液がん治療のスペシャリストが集結!

詳細は、順次こちらで公開予定



<https://www.bloodcancerforum.jp/>

血液がん知っとかナイト9月から開催決定



血液がんに関する疾患解説だけでは消化しきれない！昨年、計6回開催した「血液がん知っとかナイト」は参加者から大変好評でした。各回実施したアンケートからは「丁寧で詳細な学びの場となった」「解説が具体的にわかりやすかった」「全ての質問に丁寧な解説があり、視聴者への配慮を感じた」などのお声をいただくことも、さまざまなテーマでの継続開催を望む声が多く届きました。

そこで、今年も同様に開催することが決定しました。講演会やセミナーよりも近い距離で、質疑応答の時間を十分に取って開催します。日頃感じるモヤモヤを解決できる場を目指し、充実したコンテンツをお届けする予定です。

開催は、9月から2025年3月まで月1回、開催時間は平日の夜19時～21時を基本としています。「ご家庭ではとても忙しい時間、とのお声もいただきましたので、講演部分のみアーカイブ動画の公開も予定しています。詳細は、決まり次第ウェブサイトイベントページで公開します。

文/池田

詳細は、
決定次第
こちらに
掲載します



<https://www.cancernet.jp/event>

開催月	コンテンツ	演者
9月	急性骨髄性白血病	水田 秀一 先生 金沢医科大学 血液免疫内科 教授
10月	慢性骨髄性白血病	木村 晋也 先生 佐賀大学 医学部内科学講座 血液・呼吸器・腫瘍内科教授
11月	多発性骨髄腫の CAR-T 細胞療法	塚田 信弘 先生 日本赤十字社医療センター 血液内科 副部長
12月	人生会議（縁起でもない話し合い）が必要なわけ	佐々木 治一郎 先生 北里大学 医学部 新世紀医療開発センター 教授
1月	リンパ腫の CAR-T 細胞療法	伊豆津 宏二 先生 国立がん研究センター中央病院 血液腫瘍科 科長
2月	びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫 (DLBCL)	伊豆津 宏二 先生 国立がん研究センター中央病院 血液腫瘍科 科長
3月	自分らしく生き方・治療を決めるとは (SDM)	中山 和弘 先生 聖路加国際大学大学院 看護学研究科 教授

笑顔につながる
明日を、共に。



この社会の誰もが
その人らしく
笑顔ある日々を
過ごせることを目指して。

アブヴィ合同会社

〒108-0023 東京都港区芝浦三丁目1番21号
msb Tamachi 田町ステーションタワーS
<https://www.abbvie.co.jp/>

abbvie

大腸がんオンラインセミナー 「どう伝える？わたしの悩み」開催報告

3月は大腸がん啓発月間です。C.N.Jは3月3日(土)に「どう伝える？わたしの悩み」大腸がん患者さんとご家族のためのオンラインセミナー」を武田薬品工業株式会社と共催で開催しました。

司会はC.N.J理事である中井美穂が務め、まず愛知県がんセンター薬物療法部の谷口浩也先生より大腸がんの治療について、手術、薬物療法からゲノム医療や緩和医療、SDM(共同意思決定: Shared Decision Making)までわかりやすく講演いただきました。次に認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOMLの山口育子さんによる患者と医療者のコミュニケーションについてのご講演でした。長年患者・家族から相談を受けている中で感じている患者の課題などを紹介いただきました。

その後のトークセッションは事前に寄せられた質問、また当日視聴者からの質問に登壇者



が答える形で進みました。「悩みを伝えにくい」「どう伝えたらいいのか」「質問する際の事前のまとめ方」など多くの質問が寄せられました。山口さんからはノートの作り方など具体的な解決方法の提案や、谷口先生からは日々診療にあたっている医療者の立場からしてほしいこと、また司会の中井から患者視点の素朴な疑問など、三者三様の立場からお話しいただき、あっという間に時間が過ぎました。セミナーを通じて、患者も医療者もお互いに言葉にして伝えていく重要性、コミュニケーション能力を高めていくことが必要だということを変更して感じました。

終了後のアンケートでは、「優しさ溢れる考え方で、新しい気づきが得られました」「受診時のメモの取り方などとても参考になりました」「医療者にもプラスになる有意義な会だったと思います」など患者や医療者から多くのフィードバックが集まりました。

セミナーの様子は、活動報告より見る事ができます。大腸がんに限らず、すべての方に参考になる内容になっていますので、ぜひご覧ください。

文/浅葉

大腸がんセミナー 「ここまで進化した直腸がん治療」開催報告

3月10日(土)に、岡山県倉敷市にて「ここまで進化した直腸がん治療」機能を残し、やさしく治す時代へ」を公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院と共催で開催しました。久しぶりの現地での開催となった本セミナーは大腸がんの中でも直腸がんに焦点を当て、共催である倉敷中央病院の大原記念ホールにて行われました。直腸がん患者さんをはじめご家族や医療者、またがんになったらと不安に感じている方など多くの方が参加されました。

セミナーでは倉敷中央病院副院長の河本和幸先生の開会挨拶の後、まず外科の横田満先生と腫瘍内科の仁科慎一先生より直腸がんの手術および薬物治療について講演をいただきました。次に大腸がんサバイバーである佐々木香織さんより、患者体験談として、ご自身の排便障害やストーマのことをお話しいただき



ました。最後は国立がん研究センター東病院消化管内科の坂東英明先生のMS検査とMSI-SSD大腸がんに関するご講演でした。

後半のパネルディスカッションは、司会であるC.N.J理事中井美穂が事前に寄せられた質問や当日質問を読み上げ進められました。「遺伝で直腸がんにかかるのか」「副作用がつかないかをモチベーションにして治療に臨んだのか」など多くの質問が寄せられ、先生方からは医療的な部分を、また佐々木さんからは、治療や副作用、ストーマへの向き合い方などをお話しいただきました。先生方が患者さんのことをとても考えて治療してくださっていることが伝わってくる、また佐々木さんからはどう生きていきたいのかを考える大切さを学んだセミナーでした。

アンケートでは、「非常にわかりやすく勉強になった」「患者さんからの話はリアルで切実な内容で心に響いた」「人間味あふれたセミナーだったなどたくさんの方が届きました。セミナーの様子は、倉敷中央病院のYouTubeにて公開され、活動報告より見る事ができます。ぜひご覧ください。

文/浅葉

セミナー動画、アンケート結果はこちらから



<https://www.cancernet.jp/online240303>

セミナー動画、アンケート結果はこちらから



<https://www.cancernet.jp/240310>

オンラインセミナー

卵巣がんとともに歩む 開催

5月21日アストラゼネカ株式会社との共催で卵巣がんオンラインセミナーを開催しました。患者さんが自身の病状や治療について正確な情報を得て、医療者とのコミュニケーションがより良いものになるために企画しました。

フリーアナウンサーの町 亜聖さん進行のもと、最初にがん研究会有明病院 婦人科・総合腫瘍科の温泉川 真由先生が「円滑なコミュニケーションのために知っておきたい卵巣がんのキホン」というテーマで卵巣がんと診断されたときから初回治療や再発治療それぞれに主治医に確認すべきポイントを紹介しました。

昨今のトピックとして進行卵巣がんに対する初回治療では、再発を抑えるための、化学療法の後には維持療法を行うことや、自分のがんに効きやすい薬剤を予測するための検査について、さらに、治療の説明や、アドバンスケアプランニング、ゲノムについてなど幅広く解説しました。卵巣がんの経過観察中に行う診察や画像検査では、胃がんや大腸がん、乳がんなど早期発見できないがんもあるため、健康診断や人間ドックは患者さんであっても受けましょうというメッセージが印象的でした。

続いて、こころサポートクリニック 心療内科・精神科・腫瘍精神科の平山 貴敏先生が「患者力を高めるコミュニケーションのポイント」というテーマで講演しました。患者力とは、「自分の病気を医療者まかせにせず、自分ごととして受け止め、知識を習得し、医療者との十分なコミュニケーションを通じて信頼関係を築き、前向きに生きようとする患者の姿勢」と

解説。平山先生は、診断から治療決定期と治療開始後、それぞれの時期での課題を挙げて、患者力を高めるコミュニケーションとして6つのキーワードを紹介しました。

後半のクロストークセッションでは、卵巣がん患者の財目かおりさん、吉田ゆりさんが加わり、自身が経験したエピソードを紹介しました。

吉田さんは、主治医から卵巣がんの告知と治療の説明を受けたあと、すぐに全ての決断を迫られたため、一旦頭の中を整理するために、診察室を出て、がん相談支援センターの相談員さんなど第三者と話す時間をもらえたらよかったです、話しました。

また、財目さんは、事前に薬の副作用につ

いては説明を受けていたため、不調を感じた際に副作用は出て当たり前、積極的に医療者に伝える必要はないと思っていたそうです。のちにそれが別の病気による症状だったことがわかった経験から、自己判断せず、主治医とこまめなコミュニケーションをとることの大切さを伝えました。

最後に町さんが、2007年に施行されたがん対策基本法は、患者の価値観に基づく選択が出来るようにとの思いが込められているので、患者さんも自身が大切にしていることを言葉にして主治医に伝え、よりよいコミュニケーションをとっていただきたいと締めくくりました。

文/藤原

平山先生が紹介した患者力を高める6つのキーワード

- T** てつだってもらおう
- H** はやめのタイミングで
- A** あいさつを心がけよう
- N** なっとくしながら進もう
- K** かみに書こう
- S** しんらいしよう



LAVENDER RING TOKYO 2024 MAKEUP & PHOTOS with SMILES 応募要項詳細 	LAVENDER RING TOKYO 2024 ジャパンキャンサーフォーラム 2024 のプログラムの一つとして実施	
	メイクレッスン会場 資生堂 汐留オフィス GLOBAL VISION CENTER	撮影会場 国立がん研究センター 研究棟 1F ロビー (メイク会場から撮影会場までは車での送迎があります。)
LAVENDER RING 公式サイト 	LAVENDER RING OSAKA 2024	
	場所 大阪国際がんセンター	LAVENDER RING AICHI 2024
	場所 愛知県がんセンター	

LAVENDER RING 2024

がんサバイバーにその人らしいメイクをし、生き生きとした姿を写真に収めて発信するイベント「MAKEUP & PHOTOS WITH SMILES」およびポスター展を、今年は東京(8月24日~25日)、大阪(10月1日)、愛知(10月12日)で開催します。

大阪、愛知については、詳細が決まり次第、LAVENDER RING 公式ウェブサイトに参加申し込みについてご案内いたします。また、「MAKEUP & PHOTOS WITH SMILES」で作成したポスターの展示を先の3会場のほか、岐阜県下呂市、東京都練馬区で開催予定です。

文/藤原



乳がん体験者コーディネーター（BEC）養成講座

第19期全体発表・認定式

5月18日（土）東京ウイメンズプラザにて、第19期乳がん体験者コーディネーター（BEC）養成講座の全体発表・認定式が行われ、この日新たに22名のCNJ認定乳がん体験者コーディネーターが誕生しました。

この全体発表・認定式は、それぞれがBEC養成講座の前期・後期を通じて学んだことを発表する集大成の場です。発表時間は4〜5分。後期プログラムではプレゼンテーションに関する講義もあり、学んだことを生かして発表に臨みました。残念ながら当日参加できなかった方も事前収録やレポートで、ご自身の考えを発表しました。



上：参加者全員で記念撮影

発表が終わると、ひとりずつ、すべての課程を修了したことを証明する認定証が手渡されました。最後は参加者全員で記念撮影。無事この日を終えることができました。

第20期募集開始

2007年に第1期が開講してから今年9月ついに第20期が開講します。

e-learningを使った全20講義の視聴とレポート提出、また修了試験から構成する【前期】と、前期で学習した知識を活用するための少人数学習プログラムの【後期】で構成され、乳がんに関する信頼性の高い医療情報にアクセスし、提供できる能力を習得する養成講座です。

講座受講者の多くは乳がん体験者ですが、そのほかにも患者家族や患者支援をされている方

自分のために、誰かのために、乳がん知識を手に入れる！
Breast cancer Experienced Coordinator



乳がん体験者コーディネーター養成講座

9月3日（火）開講

割引申込期間
9月30日まで
前期受講料：80,300円（税込）

通常申込期間：12月16日まで
前期受講料：90,200円（税込）

詳細はこちらから



<https://www.cancernet.jp/training/bec>

第7回BEC・CIN・CCN 認定者対象アドバンス講習会

など幅広く受講することができます。自身の治療のためや、患者支援活動のため、ご自身の仕事に活かすためなど、受講目的は様々です。認定後はBEC認定者として、多くの方が全国で活躍しています。

6月8日（土）にはBEC・CIN・CCNアドバンス講習会を開催。アドバンス講習会とはCNJが認定した乳がん体験者コーディネーター（BEC）、がん情報ナビゲーター（CIN）、CNJがナビゲーター（CCN）のみが参加できるフォーアアップを目的とした講習会です。第7回も、前回同様希望の多かったハイブリット開催となり、全国各地の認定者もオンラインで参加ができました。

プログラムは、まず国立国際医療研究センター病院の下村昭彦先生による最新の乳がん



会場とオンラインで記念撮影

講習会の会場の様子



医療のご講演。複雑な薬物療法の中でも、特に最近の抗体医薬複合体に着目してお話いただきました。次に東京医科大学の池田貞勝先生にがんゲノム医療の現在と将来について、ご講演いただきました。またNPO法人がんと暮らしを考える会理事・みるみる訪問看護ステーション所長の賢見卓也さんには、がん治療中の訪問看護について事例を交えてご紹介いただきました。

そして最後は認定者の活動紹介と交流会。他の認定者がどのような活動をしているのかを知ることができ、認定者同士の交流や情報交換の場となりました。

開催後のアンケートでは、「医療は本当に日々進んでいることを考えさせられた」「地方においても最新の情報を知る事ができて大変嬉しい」など多くの感想をいただきました。

文／浅葉

認定者の活動状況はこちらからご覧いただけます。



<https://www.cancernet.jp/training/beccin-activity>

※2024年5月現在本名で活動している、情報公開をご了承いただいた方のご紹介です。

2024年CCNがんナビゲーター認定試験

CCNJがんナビゲーター認定試験とは、正しいがん医療情報がどこにあるのか、探し出した情報を正しく理解できているかどうか、を評価する試験として実施しており、今年度は9回目の試験を11月15日から17日にかけて実施します。

本試験は、暗記力を問うテストではなく、試験期間中に、試験問題の回答をその場で検索しながら回答していく試験となっております。そのため、事前に知識を詰め込む勉強は必要ありません。日ごろから正しいがん医療情報がどこにあるのか、アンテナを張っておくことが大切です。CCNJでは、各種講演動画が無料で視聴でき、疾患解説の冊子を無料で閲覧・ダウンロードすることができます。ぜひ事前勉強にお役立てください。

これまで多くの方が受験しているCCN認定試験は、がん情報を必要としている患者さんやご家族をはじめ、医療従事者やがん医療にかかわるかたへの受験をお勧めしており、年代は10代から80代の方まで、さまざまなバックグラウンドの方が受験しています。

詳細はこちら



<https://www.cancernet.jp/training/ccn>

試験問題のサンプル

～正しいものには○、誤りのあるものには×を選択せよ。～

Q1. がんの治療による晩期合併症として治療後、数年から数十年たって別の種類のがんを発症することがある

Q2. 便潜血検査による大腸がん検診は、40歳以上を対象として2年に1回の受診が推奨されている

～選択肢のうち正しいものを一つ選択し数字で回答せよ。～

Q3. 肝細胞がんの全身薬物療法で、初回治療としても使用可能な薬剤はどれか？

- ①レゴラフェニブ ②ラムシルマブ
- ③カボザンチニブ ④アテゾリズマブ+ペバシズマブ

(正解：Q1：○ | Q2：× | Q3：④)

2024年度の試験は8月13日(火)より申し込みを開始し、締め切りは10月20日(日)までです。自宅でも、会社でも、ネット回線とパソコンやスマホ、タブレット端末があればどこからでも受験可能です。お申し込みをお待ちしています。

文/濱中

医療者のためのグリーフサポート講座開講

一般社団法人リヴオンとCCNJ共催にて、「医療者のためのグリーフサポート講座」を開講しました。2年前にリヴオンと共催した「医療従事者向けグリーフケアアプレ講座」実施後、この本講座の準備を進めてきました。

5月20日に「お話し講座」を開催。「グリーフは指紋ほどに個別的」「Grief's normal」といったグリーフの基礎の講義や、医師自身の喪失の経験談があり、医師と看護師の対談では、自分の心に蓋をしている医療者に自分のグリーフを大切にしたいというメッセージを届けました。参加者より「グリーフについてより知りたくなった」「現場に活かしたい」という声が寄せられました。講座は「基礎講座」



詳細はこちらから



<https://www.cancernet.jp/38993>

患者さんのためのがんのリハビリテーション診療Q&A

監修 日本リハビリテーション医学会
編集 日本がんサポーターブケア学会

がんになったら運動はしているの？
治療の副作用を軽減するには？科学的根拠にもとづき、どのようなリハビリテーションが勧められているのかを専門家の先生が解説します。

ISBN978-4-307-75065-3

B5判 120頁 定価2,200円(本体2,000円+税10%)

金原出版 この書籍の詳細はこちらから→



医療者も「泣いたっていい」と謳ったポスターに惹かれ、申し込まれた方もたくさんいました。自身のグリーフを大切にすることで、他の者のグリーフも大切にできる学びを共にしたい、という思いで開催しています。

文/多田

泣いたっていい
医療者のためのグリーフサポート講座
お話し講座 5/20(日) 19:00-21:30

小児がん支援プログラム

「ゴールドリボンナイター2024」

開催のお知らせ

今年もヤクルト球団の協力を受け、神宮球場にてゴールドリボンナイターを冠協賛します。今回で3回目の開催になりますが、過去2回とも、参加された皆さんには大変喜んでいただき、楽しかったと多くの感想が寄せられました。

今年もヤクルト球団設立55周年。ついては、小児がんサバイバーとご家族を55名ご招待することにしました。今回も球場敷地内にはCNJブースを出展し、小児がん支援グッズの販売と募金集めをする予定です。

また球団からはゴールドのリストバンド、CNJからはミニうちわを来場者へプレゼント（数量限定）する準備をしています。

来場される一般の方々へは、小児がんのことを知ってもらい、小児がんサバイバーへ理解ある社会となるように願いを込めて、そして、小児がんサバイバーとご家族にはプロ野球を思う存分楽しんでいただきたいと思います。

今年の協賛金はクラウドファンディングと協賛寄付で募ることができました。皆様のおかげで130名もの方々に協力いただきましたこと、お礼申し上げます。

今年も神宮球場を輝く笑顔でいっぱいだと思います。当日は球場へ足を運んでいただき声援を送ってください。是非、皆様のご来場をお待ちしています。

スワローズ選手会より

「ご寄付をいただきました」

東京ヤクルトスワローズ選手会様よりチャリティーオークションの収益5,428,556円のご寄付をいただきました。このチャリティーオークションは、ファン感謝デーに合わせ、昨年12月1日（金）より12月10日（日）に行われ、各選手からグローブ、バット、キャップなどと合

チケットのお求め：スワチケ

<https://ticket.yakult-swallows.co.jp/>

詳しくは：CNJのイベントページ



#小児がんをかつ飛ばせ



開催日時：9月7日（土）18時より試合開始
対 戦：東京ヤクルトスワローズ×阪神タイガース

わせて2023シーズン懸垂幕アップサイクル品（選手のサイン入り）全95アイテムが提供されました。多くの品を提供してくださったスワローズの選手の皆様、そして、オークションで落札してくださったファンの皆様へ心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

詳しくは



<https://www.yakult-swallows.co.jp/news/detail/29149>

ゴールドネイルの収益より

「ご寄付いただきました」

一昨年に続き、株式会社ウカ様より1,500,000円のご寄付をいただきました。「子供たちのキラキラ輝く未来をゴールドのネイルに託して」をキャッチフレーズに、ウカならではの取り組みとしてゴールドカラーのネイルポリッシュを1000個限定発売し、価格から1,500円が寄付となる取り組みをしてくださいました。この寄付は「もっと知ってほしい小児脳腫瘍のこと」の支援プログラムに使わせていただきます。



ちひろさんのコンサートにて

「ご寄付をいただきました」

5月18日に二子玉川エクセルホテル東急にて開催された、歌手ちひろさんの20周年記念コンサート実行委員会様より、10万円のご寄付をいただきました。ちひろさんは金子みすゞの詩に曲をつけて全国各地で活躍されているシンガーソングライターです。昨年お会いする機会があり、私どもの活動を知ってくださいました。当日はカバー曲を含め全12曲を披露し、中でも金子みすゞの「私と小鳥と鈴と」に美しい旋律をのせた歌のときは、来場者と共に手話をしながら歌うちひろさんに魅了されました。会場には、国立成育医療研究センターの寺島慶太先生も駆けつけてくださり、一緒に寄付をうけ取りました。

コンサートを企画された実行委員長の小林和明様はじめ、関係者の皆様、そして素敵なステージで透明感のある歌声で皆さんの心を癒してくださいましたちひろさんに改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

文／古賀



コンサート終了後の記念写真。
左より、小林様、古賀、ちひろさん、寺島先生

レモネードスタンド 2023年度活動報告

2023年度のレモネードスタンドの開催は49件となり、啓発グッズの売り上げと合わせて寄付総額は2,274,582円となりました。開催及びご寄付を頂戴し心よりお礼申し上げます。2023年度は、地域のお祭りや学園祭などの開催が目立ち、コロナ禍も明け、レモネードスタンドを通して小児・AYA世代のがん患者支援の輪が再度広がっていることを実感いたしました。

また、レモネードスタンドジャパン応援アンバサダー「レモン&シュガー」の啓発グッズも2024年4月販売分より、やむなく価格改定を実施することとなりましたが、引き続き売り上げ分は寄付となり、小児・AYA世代のがん患者支援へと活用されます。ご自身でのご利用はもちろん、大切な方へのプレゼントとしてもご利用ください。

レモン原液提供終了のお知らせ

レモネードスタンド開催者に提供していたレモン原液の提供を、2024年4月末をもちまして終了いたしました。レモン原液提供終了後もレモネードスタンド開催のサポートや、小児・AYA世代のがん患者支援を続けてまいります。

コンビタジャパン株式会社協力によるマナカハニエの提供は継続しています。是非、ご利用ください。

レモネードスタンドジャパン応援アンバサダー「レモン&シュガー」



© LEMONA DESIGN

グッズはこちら

<https://www.lemonadestand.jp/goods>



第6次助成事業実施のご報告

この度、6回目となる助成事業を開始しました。総額200万円を小児がん治療成績の向上を目的とした研究やプロジェクトに対し助成することとなりました。応募は7月10日をもって締め切ります。採択結果等については、ウェブサイトで報告する他、採択された研究やプロジェクトの成果は今後開催されるジャパンキャンサーフォーラム等で発表予定です。

文/濱中

2023年度 (4/1時点) レモネードスタンドご報告

総数：72件 (寄付のみ：23件 / 開催数：49件)

寄付額：¥2,187,462

啓発グッズ売上合計：¥175,820

売り上げから仕入れ額を引いた寄付分：¥87,120

レモネードスタンドジャパン
2023年度収入計

¥2,274,582

JSTCT2024

市民公開講座で発表

2024年3月21日より東京国際フォーラムにて開催された第46回日本造血・免疫細胞療法学会総会(JSTCT2024)市民公開講座「がんと暮らす」へ2023年まで助成金事業を担当した池田が登壇しました。

「がんの性生活への影響」をテーマに、以前実施したアンケート調査の結果を血液がんにとつてまとめ直し、紹介しました。まず、血液がん患者にとつての性生活への影響は、中・長期的に起こり得る副作用・後遺症のひとつであること、恥ずかしいことでも我慢することでもないと伝えるとともに、男性は性機能への影響は少ないものの、女性は性交疼痛などの悩みを抱えやすく、男女ともに性欲の低下・体力低下による気かりや感染症や病気への影響に対する恐怖を感じやすい、といった特徴がみられたことなどを紹介しました。

アピアランスや発声、就労などの多彩なテーマで構成され、患者のみならず、医療従事者からも多くの反響をいただきました。なお、がんと性に関する個別相談は現在も継続して対応中です。

文/池田



オンデマンド配信はこちら



<https://convention.jtbcom.co.jp/jstct2024/public/index.html>

ヤンセンが目指すのは、病が過去のものになる未来を作ることです。

世界のすべてが、私たちの研究室。病と懸命に闘う患者さんのために、高い科学技術、独創的な知性、世界中の力を合わせ、新しい可能性を切り拓く。すべては、私たちの解決策を待つ、ひとつの命のために。複雑な課題にこそ挑戦していく。新しい薬を創るだけでなく、それを最適な方法で提供する。革新的な薬や治療法を、届ける。世界中に、私たちが待つ人がいる限り。誰もが健やかに、いきいきと暮らす社会。そんな「当たり前」の願いのために、自ら変化し、努力を続けます。

ヤンセンファーマ株式会社
www.janssen.com/japan
www.facebook.com/JanssenJapan



がん治療医のための障害年金請求用診断書作成ガイドブック 発行および、オンラインセミナー開催報告

障害年金請求のための 診断書作成ガイドブック 発行



障害年金は、病気やけがにより日常生活や仕事に支障がある場合、要件に合えば受給できます。障害年金の請求には医師の診断書が必要で、その内容次第で受給が決まるといっても過言ではありません。しかし、障害年金の診断書は大変複雑で、作成するには膨大な時間と労力がかかるという問題がありました。

そこで、C N Jでは、勝俣範之教授（日本医科大学武蔵小杉病院、神田善伸教授（自治医科大学附属病院・附属さいたま医療センター）に監修を依頼し、医師の負担を少しでも軽減できるよう、診断書の書き方をガイドブックとしてまとめました。血液がん患者、卵巣がん患者の事例をあげ、診断書作成のポイントやコツを紹介しています。がん患者さんの障害年金請求にかかわる医療従事者の方に広く活用いただきたく、

ガイドブックのダウンロードはこちら



https://www.cancernet.jp/disability_pension

ガイドブックのアンケートはこちら



<https://forms.gle/XKGtPvLsaNDQxjFR6>

がん連携拠点病院や血液内科に発送いたしました。ウェブサイトで全文公開中です。アンケートにご協力いただければ、15冊無料でお送りします（11月末まで）。

オンラインセミナー

「医療従事者向けがん患者さんの障害年金について」医療現場におけるサポート

6月18日に開催したオンラインセミナーでは、川崎由華氏（一般社団法人がんライフアドバイザー協会）に、医療従事者に知ってもらいたい障害年金の制度概要や病院内でできるサポート、職種間の連携について解説いただきました。多田雄真先生（大阪国際がんセンター血液内科/A Y A代サポートチーム）に、障害年金の受給につながった血液がん患者さん、A Y A世代のがん患者さんの事例を通して請求のポイントをお話しいただきました。



アーカイブ動画はこちら



<https://www.cancernet.jp/online240618>

たくさんさんの質問が寄せられ、関心の高さがうかがえました。アーカイブ動画でご視聴いただけます。

ウェブサイト

「障害年金について」公開

受給要件や受給額の目安、相談窓口、請求方法をわかりやすくまとめた公開いたしました。ぜひ請求の際のヒントとしてご利用ください。

これらのプロジェクトは、ファイザー株式会社「急性骨髄性白血病の治療環境プロジェクト」の助成により実施いたしました。

文／多田



ウェブサイト「障害年金のこと」



<https://www.cancernet.jp/seikatsu/medical/disability-pension/>

処方箋がなくても毎日来たくなる薬局

私たちは、地域の人々に愛され、信頼され、喜ばれる存在として社会に貢献し、皆様の健康をサポートする、選ばれる企業を目指します。



palonest.co.jp



株式会社 パル・オネスト

埼玉県富士見市東みずほ台 1-9-4

子宮頸がん予防啓発
リーフレットの無償提供(第2弾)

昨年9月に改訂した子宮頸がん予防啓発リーフレットの6万部無償提供を行ったところ、おかげさまで、72自治体等から申し込みがありました。1か月ほどで無償提供は終了しましたが、27自治体からご購入いただき大変好評をいただきました。

本年度は、さらに改訂を重ね、2024年度日本郵便年賀寄付金助成事業の支援を受けて、自治体、病院、教育機関を対象に、無償提供第2弾として、先着15万枚をお送りしました。子宮頸がん検診やHPVワクチンの接種案内への同封、成人式での配布などでご利用いただいています。特に、HPVワクチンのキャッチアップ接種(積極的勧奨の差し控えにより接種機会を逃した方を対象に公費で接種)は、2025年3月で終了となります。ぜひ必要な方に情報が届くよう、本リーフレットをご活用いただきたいと思っています。

なお、無償提供が終了した現在、自治体、病院、教育機関には、1枚15円十税、送料一律800円で承っています(企業等には、1枚20円十税、送料一律800円となります)。

文/多田



リーフレット
申込等詳細
はこちらから



<https://www.cancernet.jp/cancer/cervical/leaflet>

冊子「もっと知ってほしい
子宮頸がんのこと」改訂

このたびは東京慈恵会医科大学 教授 岡本愛光先生監修のもと、患者さん向け子宮頸がんの冊子を改訂しました。子宮頸がんの進行期ごとに治療の流れを図表で示し、手術の方法はイラスト入りで、いずれもわかりやすく解説しています。

子宮頸がんでは最初に行われる治療としては、手術、放射線療法単独、同時化学放射線療法が主流で薬物療法はIVB期や再発した場合に行われますが、改訂版では、薬物療法のページを増やし、治療に使われる抗がん剤、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬の一覧と、それぞれの主な副作用、その対処法も掲載しています。また、IV期で標準治療が終了する見込みになった場合、がんに関連する遺伝子を網羅的に調べるがんゲノム検査についても紹介しています。

冊子はキャンサーネットジャパンのウェブサイトより閲覧、無料でダウンロードが可能です。本冊子が、今まさに、子宮頸がんを診断された患者さん、治療と向き合っている患者さんの一助になることを願っています。

文/藤原



詳しくは
こちらの
サイトから



<https://www.cancernet.jp/keigan>

自分や家族、大切な人の
「がん」に向き合う

もっと

知ってほしい

がんと生活のこと

心のケア

不安な気持ちや悩みの
解決策について解説

医療制度

新しく障害年金の
事も追加!

がんと性

がんと性の情報発信
と専門相談ツールも!

容姿の変化

治療中でも元気に
見えるメイクのコツ

患者体験談
冊子

がんと音楽にまつわる
エピソードも公開開始!

栄養・食事

がんと栄養の関係
役立つレシピも!

QRコードでアクセス!
スマートフォン・
タブレットにも対応!



がん患者さん・ご家族に向けて
がんやがん治療に付随する
生活に関する情報を
発信するWEBサイトです。



<https://www.cancernet.jp/seikatsu/>

2023年度プロジェクトのご報告

NPO 法人がんネットジャパンは、これからも、科学的根拠に基づくがん医療情報をあらゆる方法で発信し続け、がんサバイバーの声を広く社会に届けることで、がんになっても、生きがいをもてる社会の実現に向け、精進し続けて参ります。

活動 カテゴリ	プロジェクト	内 容	時 期	場 所	対 象
普及啓発	Japan Cancer Forum	2日で44のがんに関する講義・プログラムを実施	8月	Web	一般・患者・家族等
	血液がんフォーラム	2日で21の血液がんに関する講義・プログラムを実施	11月	Web	一般・患者・家族等
	MBS Jump Over Cancer ちやまちキャンサーフォーラム	乳がん、緩和ケアに関する講義・プログラムを実施 (MBS 毎日放送共催)	11月	大阪	一般・患者・家族等
	Over Cancer Together	ワークショップ形式の スピーチ研修開催	6月	Web・東京	患者・家族等
	大腸がん啓発 ブルーリボンキャンペーン	セミナー開催 (武田薬品工業株式会社共催)	3月	Web	一般・患者・家族等
		セミナー開催 (公益財団法人大原記念倉敷中央医 療機構 倉敷中央病院共催)	3月	倉敷	一般・患者・家族等
		特設 Web サイト運営・メルマガ	通年	Web	一般・患者・家族等
		特設 Web サイトでの動画配信	通年	Web	一般・患者・家族等
		活動に賛同する医師アンバサダー	通年	全国	医師ら 86 名
		啓発グッズの作成・販売	通年	Web / ブース	一般・患者・家族等
	胃がん・食道がん啓発	啓発グッズの作成・販売	通年	Web / ブース	一般・患者・家族等
	肝臓がん啓発	セミナー開催協力	7月	東京 / Web	一般・患者・家族等
	前立腺がん啓発	セミナー開催協力	11月	東京	患者・家族等
	子宮頸がん啓発 ティール&ホワイトリボン プロジェクト	啓発リーフレットの改訂、配布	通年	Web / 全国 / ブース	一般・患者・家族等
		セミナー開催協力	11月	Web	一般・患者・家族等
		特設 Web サイト運営	通年	Web	一般・患者・家族等
		啓発グッズの作成・販売	通年	Web / ブース	一般・患者・家族等
	乳がん啓発	Web サイトでの情報発信	通年	Web	一般・患者・家族等
		啓発グッズの作成・販売	通年	Web / ブース	一般・患者・家族等
	卵巣がん啓発	セミナー開催 (アストラゼネカ株式会社共催)	5月	Web	一般・患者・家族等
	小児がん啓発	ゴールドリボンナイター冠協賛	9月	東京	一般・患者・家族等
		特設 Web サイト運営	通年	Web	一般・患者・家族等
		啓発グッズの作成・販売	通年	Web / ブース	一般・患者・家族等
各がん種 (すい臓がん、肺がん、 希少がん)	Web サイトでの情報発信	通年	Web	一般・患者・家族等	
がんのセクシュアリティ支援事業	Web サイトでの情報発信 個別アプリ運営 LINE スタンプ販売	通年	Web	一般・患者・家族等	
	小冊子配布	通年	全国	医療従事者・ 一般・患者・家族等	

(期間：2023年4月1日～2024年3月31日)

活動カテゴリ	プロジェクト	内容	時期	場所	対象
普及啓発	がんと栄養	Webサイトでの情報発信	通年	Web	一般・患者・家族等
		アンケート調査受託	12～1月	Web	患者・家族等
	がんと生活	Webサイトでの情報発信	通年	Web	一般・患者・家族等
	医療者向け講座、資料制作	「医師向け がん患者さんの障害年金請求のための診断書作成ガイドブック」制作	通年	Web/ 全国	医療従事者
		多発性骨髄腫におけるSDM促進を目的とした治療選択支援冊子の制作	11月～	Web/ 全国	医療従事者・患者アドボケート
		動画配信(CML治療環境向上プロジェクト)	通年	Web	薬剤師
	血液がん啓発	特設Webサイトでの動画配信	通年	Web	一般・患者・家族等
		オンラインセミナー開催	9～10,12～3月	Web	一般・患者・家族等
	多発性骨髄腫	特設Webサイトでの動画配信	通年	Web	一般・患者・家族等
	造血幹細胞移植	特設Webサイトでの動画配信	通年	Web	一般・患者・家族等
	急性リンパ性白血病	特設Webサイトでの動画配信	通年	Web	一般・患者・家族等
	小児脳腫瘍	特設Webサイトでの動画配信	通年	Web	一般・患者・家族等
		遺伝子検査費用寄付サイト運営	通年	Web	一般・患者・家族等
	悪性黒色腫：メラノーマ	特設Webサイトでの動画配信	通年	Web	一般・患者・家族等
	がんチャンネル	Webサイトでの動画配信	通年	Web	一般・患者・家族等
	もっと知ってほしいシリーズ冊子	全38冊公開・配布 (新規発行1、改訂4)	通年	Web/ 全国	患者・家族等
	がん体験者ピアサポート	ピアサポーター業務受託	通年	藤沢市民病院 ほか神奈川県内5施設	患者・家族等
	株式会社電通の有志、株式会社資生堂との共同プロジェクト LAVENDER RING	MAKEUP & PHOTOS WITH SMILES、ポスター展	6・9月	愛媛、愛知、大阪、福岡	一般・患者・家族等
	機関誌	機関誌冊子作成・発行	7月、1月	Web/ 全国	CNJ支援者等
	SNS	Facebook/Instagram /X/YouTube	通年	Web	一般・患者・家族等
企業等に向けた事業	患者向けアンケート実施、社内向け研修支援、がん教育支援	通年	Web/ 全国	一般・患者・家族等	
その他	実習受け入れ	通年	東京	大学生・高校生	
養成講座	CCN：CNJがんナビゲーター認定試験	Web試験	11月	Web	一般・患者・家族
	BEC：乳がん体験者コーディネーター養成講座	Web-Learning講座+対面講習	9～5月	Web・東京・大阪	乳がん患者・家族等
草の根啓発活動	がん情報ステーション	対面でのサポート (がん体験者向けアロマセラピー講座開催)	通年	東京	患者・家族等
	男性乳がん啓発	交流会実施	9・2月	Web/ 東京	患者・家族等
	レモネードスタンド	レモネードスタンドの開催支援 新古ウィッグプレゼント	通年	全国	一般・患者・家族等
	ブース出展	他団体主催イベントでの出展	通年	全国	一般・患者・家族等
	かつらのデイリース	情報提供・広報支援	通年	全国	患者
	ウィッグな帽子	情報提供・広報支援	通年	全国	患者

特定非営利活動法人（以下NPO 法人）キャンサーネットジャパンの活動は、
 私どものミッションとビジョンに賛同を頂いた企業様・団体様、個人様の寄付、及び事業収益により行なわれています。
 以下のリストは、NPO 法人キャンサーネットジャパンに寄付、ならびに事業支援を頂いている企業様・団体様・個人様です。

Supporter サポーター企業		
Atheneum Partners	株式会社中日新聞社	セコム損害保険株式会社
Medlingo	株式会社ツムラ	武田薬品工業株式会社
RTB MOTORCYCLE	株式会社電通	中外製薬株式会社
アクトメッド株式会社	株式会社東京義髪整形	日本イーライリリー株式会社
アストラゼネカ株式会社	株式会社中沢ヴィレッジ	日本カルミック株式会社
アッヴィ合同会社	株式会社ナレッジワイヤ	日本新薬株式会社
アフラック生命保険株式会社 長崎支社	株式会社バーソン・コーン&ウルフ・ジャパン	日本生命保険相互会社
アムジェン株式会社	株式会社パソナ	日本セルヴィエ株式会社
インサイト・バイオサイエンス・ジャパン合同会社	株式会社パル・オネスト	ハースト婦人画報社
MSD 株式会社	株式会社ピカワカ	バイエル薬品株式会社
オイシックス・ラ・大地株式会社	株式会社日立保険サービス	ファイザー株式会社
小野薬品工業株式会社	株式会社ビームス	フコクしんらい生命保険株式会社
金原出版株式会社	株式会社モリヤコンサルティング	富国生命保険相互株式会社
株式会社 i-D international	株式会社ヤクルト球団	富士製薬工業株式会社
株式会社 AVENGE	キャンノン電子テクノロジー株式会社	ブリistol・マイヤーズ スクイブ株式会社
株式会社ウカ	合同会社つながり	BeiGene Japan 合同会社
株式会社エピソード	コロプラスト株式会社	メディカルマーケットビジョン株式会社
株式会社オフィスMC	サノフィ株式会社	メドピア株式会社
株式会社コルボ	ザ・プレミアムバックステージ株式会社	メルクバイオファーマ株式会社
株式会社四国建工	サンブロードバンド株式会社	ヤンセンファーマ株式会社
株式会社ストーリーズ・オン	城南信用金庫	ユサコ株式会社
	スター電気株式会社	

Nonprofit 非営利組織サポーター		
一般社団法人 Empower Children	医療法人徳洲会 湘南鎌倉総合病院	公益社団法人日本がん看護学会
一般社団法人がんと働く応援団	F candles	相模原市
一般社団法人食道がんサバイバーズシェアリングス	NPO 法人エンパワリング プレストキャンサー /E-BeC	社会福祉法人恩賜財団済生会横浜市南部病院
一般社団法人日本経営パートナーズ	NPO 法人腺友倶楽部	世田谷区
一般社団法人日本小児血液・がん学会	NPO 法人中皮腫サポートキャラバン隊	永谷皮フ科医院
一般社団法人日本臨床栄養代謝学会	NPO 法人日本小児がん研究グループ	日本がん免疫学会
医療法人社団ナイズ (キャップクリニック)	NPO 法人肺がん患者の会ワンステップ	練馬区
医療法人社団守一会 北美原クリニック	NPO 法人婦人科悪性腫瘍研究機構	藤沢市民病院
	慶応義塾大学病院	大和市立病院
	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院	

Grant 助成金	ファイザー株式会社
-----------	-----------

Media メディアサポーター	MBS 毎日放送	メディアサイト株式会社
-----------------	----------	-------------

Lemonade レモネードスタンド開催・サポーター

AMAYAKA(W)	みみみのレモネードスタンド	社会福祉法人中野社会福祉協会天城子どもの家びわミカン
F candles	レモスタかつしか	酒田南高校 3年 8組Zコース
HELLO HELLO	レモネードスタンド in ひめじ	住友千紘
LEMONA DESIGN 株式会社	レモネードパレード	女子聖学院 ecomame
Little gems International School 東京ベイ校	愛知県立瑞陵高等学校インターアクトクラブ	上矢部高等学校インターアクトクラブ
Little Pianist ♪～音を楽しむお教室～	愛宕レモネードスタンド	大阪教育大学附属高校池田校舎ユネスコ部
M's English	一般社団法人ベストオブライフサポートエール	大山レミ
大辻茶葉店・大辻恵子とこどもゆめマルシェこども店長	学生団体マイハウス	梅香地域活動協議会 梅香小学校 PTA
ガールスカウト千葉県第 91 団	株式会社ニッチプランニング	白梅学園清修中高一貫部 清徒会
シオン幼稚園	宮城県仙台二華高等学校 英語部	望月美郷
ディルマコーソサロン	香芝市商工会女性部	茂木晃
フェリーチェ	三好市社会福祉協議会	和歌山県立和歌山工業高等学校 図書部
ノバルティスファーマ株式会社 篠山工場 (日本チバガイギー株式会社)		

レモン原液提供：ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社

マヌカハニー提供：コンビタジャパン株式会社

Supporter 個人サポーター

赤倉功一郎	井出翔太郎	大沼有由	金森俊揮	Cook Kevin
赤澤杏子	伊藤寛明	大橋晃太	金子一美	Goodman Leah
明石みき	伊藤諒介	大橋千夏	金子裕和	工藤真弥
Agrawal SHILPA	稲葉博光	Orr Bob	金子綾太	光國宏志
浅井恵子	今井順子	大村健二	加納智	久保昌也
朝倉健児	井村佐をり	岡田仁支	鹿江真悟	Clotilde Jacqmin
芦澤大喜	岩岡由紀子	岡本優子	上代文彦	香本晃良
穴澤嘉雄	岩城久美	小川晋太郎	神谷貴子	古賀喜紀
Ahearn Cathleen	岩崎竜也	沖峰之	上谷能彬	古賀真美
阿部純平	岩澤洋美	沖村一満	亀谷直樹	國分寛幸
安部典一	岩田崇	荻原梨奈	Gargalovic Peter	Gosalia Dhaval
荒井宏行	Wisner Kimberly	小笹和洋	河井灯	小平孝司
荒川竜平	上瀧大	長田繁孝	川下祐太郎	古谷順良
Alfonso Mel	上田隆	小田毅	河田達哉	児玉富子
阿波奈々子	上田泰世	越智雪乃	河野仁郎	後藤晃
安蒜友也	上野信	乙丸貴史	川島和巳	後藤太郎
五十嵐裕司	内田さゆり	小野寺拓万	川原義高	後藤久雄
伊木雄生	内田雅宣	小野康	川村純司	後藤良介
池田依里	梅澤厚	尾藤周作	川村幹夫	小西哲郎
池田真由美	卯目雄三	Ault Mike	Keane Andrew	小橋勇利
石井陽生	Akers James	海保英治	菊地浩行	小林和明
石井明美	江越洋二	甲斐良輔	菊地正和	小林まどか
石井正博	江崎芳弘	Kaul Nikhil	菊地万里子	小松邦岳
石田穰治	越後貴由	加賀慶一	鞠有清	小松京子
石堂博子	遠藤裕介	角谷千恵子	岸本大輔	小宮山哲平
石原俊一	遠藤巨	笠井志保	岸森あかり	近藤弘志
伊豆津宏二	遠西晃	梶原啓史	来代康子	今野裕土
磯野真千子	王帝	片平智保	北野敦子	金野航
磯部博美	大内里咲	片山貴博	北野訓士	斉木起久子
板倉優斗	大河原弘子	勝木敬子	菊香順史	齋藤篤志
伊田憲史	大隈徹	葛谷利昭	木下源太郎	齋藤晋士
市川雅子	大代直樹	加藤航介	木下高雄	齋藤岳志
市毛祐	大友明子	加藤由紀子	君嶋悠矢	境谷千恵子
櫛本由美	大西亜里	加藤瑠璃子	Killeen Nicole	櫻洋一郎
		我那覇圭	釘貫由美子	佐々木雅宣

佐々木育子	竹之内博文	西村邦彦	Hawkins Lynne	茂木晃
佐々木真子	竹本麻美	西山毅	星野宏幸	森景太郎
佐々倉裕美	田島玄太郎	祢宜幸二	星山鎮秀	森田将仁
捧博子	DAS MAHENDRA	Nestola Frank	細江和希	守田亮
笹崎雄介	田中潤	野寄容平	細貝浩行	森美波
Zappavigna Bruno	田中英恵	野田和宏	堀田倫之	森山淑子
Sadeghi Rochelle	谷明博	野村久祥	堀進也	八木峻也
佐藤明宏	田村佳世	埜本秀信	堀誉志	柳下靖
佐藤薫	田村洋輔	波賀野健介	本田孝史	谷澤元樹
佐藤英明	Chen Karen	朴知賢	前田敦	谷澤周平
佐藤雄也	近石俊司	橋浦由記子	前田敏宏	八尋直樹
佐藤由美	チンテキ	橋倉正信	前馬直樹	山口勝己
Sai Vijayanathan	Tsai Marc	橋本和哉	牧慶太	山口輝臣
澤井和子	塚本隆広	橋本佐与子	槇原真優子	山崎多賀子
沢田晃暢	辻宏樹	橋本朋広	牧山真智子	山崎鉄也
澤田幸恵	辻正史	長谷川薫	正辻晃教	山崎宏之
椎橋孝	辻本景英	長谷川友寛	松井祐一郎	山崎めぐみ
塩田初美	堤一晃	秦貢志	Muchnick Jeff	山田泰久
重松純子	坪田智明	波多野弁	Musser Stefanie	山田亮
信濃光憲	釣谷克樹	蜂須賀順子	松下正宣	山中寿之
篠田現	鶴田浩三	服部貴秀	松島広幸	山本昭彦
嶋田満	鶴谷武親	服部雄策	松島勇介	山本綾
島津貴弘	tiberiu VADANICI	馬場崎麻衣子	松田雄幸	山本永子
清水義仁	寺谷正法	浜本康夫	松永英明	山本淳史
Simonelli Tatiana	堂免秀平	早川孝之	松原香織	山本恒久
Shankar Siddharth	富樫宏晃	林怜佑	松村康崇	山本東次郎
Schmelzer Mary Alice	徳永大林鹿	速水克也	松本栄次	山本由美
白川光政	徳永美津子	原田亜弥	松本真大	閻為華
Singraber Stefanie	徳安潤一郎	原田幸治	松本洋人	横井孝充
菅野典之	Tozzi Brian	原田雅義	真部淳	横田真俊
杉浦秀郎	Topiwalla Mustafa	原田幸宏	丸山薫	横田佳敬
杉浦雅彦	Thomson James	孕石昌司	三上純平	吉岡拓耶
杉田真	友寄絵美	Basulto Jasso Elizabeth	三澤圭介	吉田周平
スギノステーブ	中川恭子	Humphreys James	三澤潤	吉田寿哉
杉山篤正	中川千鶴子	東山亨子	水田康夫	吉田寿生
杉山愛	永澤賢一	東山朋弘	水八寿裕	吉田美香
Scott Cooke	中澤真紀	引地祐介	南麻美	吉田由華
鈴木俊昭	中島大介	Vig Balvinder	南善典	米谷秀子
須田真	中園良信	日野杉良輔	嶺岸航作	米澤麻美
Smith Denise	中田尚志	平野健二	峯村幸男	米田樹里
住友千紘	中谷紀章	平松君枝	宮川尚久	米田毅
諏訪真子	中ノ上隼人	廣田修一	宮川博義	Reiter Juliet
関憲二	中野智子	福井史明	宮崎和典	Luthra Amrish
関徹也	中野浩子	福島さゆり	宮崎文平	Luthra Tanya
銭田康伸	長浜修	福嶋勝和	宮崎芳幸	lesueur olivier
セリアアワジ	仲丸善喜	福原秀則	宮下尚久	Reba Alan
SEN SUJOY	中村和夫	藤井友寿	宮嶋ゆりあ	Rosenberg Amy
高久和之	中村健司	藤田大智	宮田恵子	Laurent Thomas
高田麻未	中村将悟	藤本浩	宮野秀人	BERT ESKILDSEN
高田邦博	永吉寛吾	藤原鈴子	宮平憲	我妻尚樹
高野史稔	名倉洋子	Brad Blumenfeld	宮本英治	脇坂誠也
Takahashi Iona	Nagrod Kerrie	blank libby	宮本祥太郎	和田和江
高橋栄子	並木淳一	blank robert	三好友美	和田真吾
高橋佐和子	納谷祐輝	blank eric	村上誠	渡辺理彦
高橋亮	檜府貴幸	古市健二	村上良太	渡辺厚こ
高原直子	新妻秀剛	古川元久	村田里依	渡辺昌一
takamura hiroyuki	新美三由紀	古本明	村野理子	渡辺祐子
武石友哉	西尾充史	Heffner Donna	村本直美	渡邊友里
武田高德	西園千江美	Hoeller Kurt	村山謙	和田友規子
武田史子	西正	北條美緒	村山広幸	

海外がん医療 TOPICS

がん治療の決定に患者の意向を反映する

自分にとって最善と思われるがん治療を受けるには、患者が治療選択の意思決定に参加することが重要です。医師と患者と一緒に治療計画を決めることを、シェアード・ディシジョン・メイキング (SDM) と言います。日常生活で自分の意見をはっきり言う人が多いアメリカでも、意思決定への患者参加には改善の余地があることを示す研究があります。

この研究では、治療計画決定前の SDM に関して、がん患者 320 人と腫瘍内科医 112 人に行ったアンケート調査をもとに考察しています (アメリカがん協会の学術誌『Cancer』2020 年 8 月号)。

調査では、患者の 62% が「主治医が治療計画を決定する前に、QOL に関し患者の優先事項について知っておくことは非常に重要」と回答し、医師側も 68% が「そうした情報は、医師が推奨する治療に大きな影響を与える」と答えています。

実際、大半の医師 (67%) は、治療計画を決める前に患者の優先事項や好みを把握したと答えましたが、その一

方で、治療が始まる前に医師と話し合ったと答えた患者は 37% でした。また QOL に関する患者の優先事項などをカルテに記録したと答えた医師は、63% にとどまりました。研究者は、こうした話し合いに対する診療報酬が確立されておらず、電子カルテに患者の優先事項の記入欄がないことなども障壁である可能性を指摘しています。

患者が挙げた QOL の優先事項のトップ 3 は、精神機能、自立して生活できる能力、財政的苦境を強いられない治療費用でした。が、治療計画の決定前に治療費について医師と話した患者は 59% にとどまっています。QOL に関する優先事項は患者の年齢やがんの進行度合いによっても異なります。65 歳未満で早期の患者は性的なことや妊孕性、仕事や家族の面倒を見ることができかどうかとも重要視しますが、65 歳以上で進行がんの患者は宗教・信条や文化的価値観が非常に重要だと答えています。

研究者は、治療決定にあたり QOL に対する患者の優先事項や多様な価値観を考慮し、SDM を促すような仕組みづくりや改善の必要性に言及しています。

情報提供 / 海外がん医療情報リファレンス

主催：認定 NPO 法人がんネットワークジャパン



がん患者さんご家族・一般市民のための
日本最大級のがんフォーラム

ジャパンキャンサーフォーラム

再逢～知識の探求と人のつながり～

8月24日(土) 11:00-18:00
8月25日(日) 10:00-17:00

国立がん研究センター築地キャンパス 研究棟

〒104-0045 東京都中央区築地 5-1-1

第1・2会場 24日・25日 国立がん研究センター築地キャンパス 研究棟

オープニングセッション
がん医療の現状とこれから

がんサバイバーの
声を聞こう!

漢方医学と漢方薬

骨転移診療だけではない
「がんロコモ」対策

交流会・
ミニセミナー

大腸がん

再発・転移
乳がんの薬物治療 2024

クローズングセッション
賢い患者になるために

他

第3会場 オンデマンド配信

オンデマンド配信：8月20日(火)～

肺がん 肝臓がん 乳房再建

食道がん 腎がん

子宮頸がん 卵巣がん

他

掲載プログラムは、
一部です。
詳細はこちらから



映画上映会
&
トークショー

ブース & ポスター展示 (紹介) &
スタンラリー

LAVENDER RING
MAKEUP & PHOTOS WITH SMILES
開催



スペシャル
トーク
ゲストも!



申し込み方法 本イベントの現地参加には申込が必要です

以下の URL または左の二次元コードで、お申し込みください。事前質問も受け付け中!

申し込み・詳細はこちらから <https://www.japancancerforum.jp/booking>

参加無料
要申込

各日1,000名 先着順

がんになっても生きがいのある 社会の実現を目指して

現在、日本では年間約 100 万人（一生のうちに 2 人に 1 人）が「がん」と診断されています。私たちは患者本人が正しい情報を入手し、自らが納得したうえで治療に臨み、がんと共に暮らしていくために、エビデンスに基づいたがん医療情報と必要な情報を、専門家と共に分かりやすく提供することで、広くがん患者や患者家族の支援をしています。

みなさまからの継続的な支援により、
多くの患者さんやご家族、その支援者、医療者に
エビデンスに基づいた情報を届けることができます。

寄付で支援

会員で支援

ご寄付お願いいたします

会員お申し込みの方法（正会員・賛助会員）
どなたでもお申込み OK!



クレジットカード
単発での寄付



コンビニ決済での
寄付



お振込での
寄付



クレジットカード
でのお申し込み



コンビニ決済
でのお申し込み

個人・団体からのご寄付は、随時受け付けております。
詳細・その他のご寄付は以下のURLか右記二次元コードから
<https://www.cancernet.jp/donation>



税の優遇措置が受けられます

がんセンターネットジャパンは、2016年8月22日より「認定NPO法人」として認定されています。これによりがんセンターネットジャパンに寄付された方は、確定申告によって、寄付金控除等の税制優遇を受けることができます。

* 税制優遇を受けるためにはがんセンターネットジャパンが発行する領収書が必要となります。お手数ですが、寄付される方は、氏名と住所をお知らせください。

CNJ の会員制度は、会員に限定した特別なメリットを提供する制度ではありません。「CNJ の会員になる」ということは、CNJ の活動を継続的に支援する、という「あなたの意思」を表明することです。NPO 法人がんセンターネットジャパンのミッション・ビジョンにご賛同頂ける方々（個人・法人）は、是非ご入会頂きますようお願い申し上げます。

詳細・ファックス（銀行振込）での
お申し込みは以下のURLか右記二次元コードから
<https://www.cancernet.jp/member>



* 賛助会員の入会金・年会費は寄付金控除等の
税制優遇を受けることができます。
（正会員の税控除はありません）